

[野菜（果菜類）]

4 きゅうり

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性品種、抵抗性台木、生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥、点滴かん水施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類)	アブラムシ類など	3回
	(天敵微生物)	アブラムシ類など	3回
	(B T 剤)	オオタバコガなど	3回
	○被覆栽培技術 (雨よけ)	べと病、褐斑病 つる枯病、炭疽病	3回 2回
	○被覆栽培栽培技術 (防虫網)	オオタバコガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○抵抗性品種栽培・台木利用技術	うどんこ病 べと病 褐斑病 つる割れ病	2回 2回 2回 1回
○熱利用土壌消毒技術	立枯病、ネコフセンチュウ	1回	
○光利用技術 (紫外線カットフィルム)	アブラムシ、アザミウマ コナジラミ、ハモグリハエ	2回	
その他の留意事項			

5 すいか

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性台木、生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥、点滴かん水施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤)	アブラムシ類など	3回
		アブラムシ類など	3回
		オオタバコガなど	2回
	○被覆栽培技術 (雨よけ)	疫病	2回
		つる枯病	2回
		炭疽病	2回
	○被覆栽培技術 (防虫網)	オオタバコガなど	3回
○マルチ栽培技術	雑草	1回	
○抵抗性品種栽培・台木利用技術	つる割れ病	1回	
○熱利用土壌消毒技術	立枯病、ネコフセンチュウ	1回	
○光利用技術 (紫外線カットフィルム)	アブラムシ、アザミウマ コナジラミ、ハモグリバエ	2回	
その他の留意事項			

6 メロン

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料、点滴かん水施肥を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性台木、生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤)	アブラムシ類など	3回
		アブラムシ類など	3回
		オオタバコガなど	3回
	○被覆栽培技術(雨よけ)	つる枯病	2回
		疫病	2回
		炭疽病	2回
		べと病	2回
○被覆栽培技術(防虫網)	オオタバコガなど	3回	
○マルチ栽培技術	雑草	1回	
○抵抗性品種栽培・台木利用技術	つる割れ病 うどんこ病	1回	
○熱利用土壌消毒技術	立枯病、ネコフセンチュウ	1回	
○光利用技術(紫外線カットフィルム)	アブラムシ、アザミウマ コナジラミ、ハモグリバエ	2回	
その他の留意事項			

7 しろうり

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性台木、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵微生物) (BT剤)	うどんこ病など ヨウムシ類など	2回 1回
	○被覆栽培技術(防虫網)	オタパコガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○抵抗性品種栽培・台木利用技術	つる割れ病	1回
	○光利用技術(紫外線カットフィルム)	アブラムシ、アザミウマ コナジラミ、ハモグリバエ	2回
その他の留意事項			

8 かぼちゃ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術（天敵微生物） （BT剤）	ネコブセンチュウなど ヨトウムシ類など	2回 1回
	○被覆栽培技術（防虫網）	オオタバコガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
その他の留意事項			

9 トマト

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性品種・台木、生物農薬、被覆栽培、黄色灯等により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥、点滴かん水施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (B T 剤) (天敵微生物)	アブラムシ類など オオタバコガなど 灰色かび病など	5回 2回 5回
	○被覆栽培技術 (雨よけ)	疫病	3回
	○被覆栽培技術 (防虫網)	オオタバコガなど コナジラミ類 マメハモグリハエ	2回 3回 4回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○抵抗性品種栽培・台木利用技術	青枯病 萎凋病 ネオブセンチュウ 葉かび病 斑点病	1回 1回 1回 3回 3回
	○熱利用土壌消毒技術	青枯病	1回
	○光利用技術 (黄色灯)	夜蛾類	2回
	その他の留意事項		

10 なす

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性台木、生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥、点滴かん水施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (B T 剤)	アブラムシ類など 灰色かび病など オオタバコガなど	3回 5回 2回
	○被覆栽培技術(雨よけ)	疫病	3回
	○被覆栽培技術(防虫網)	オオタバコガなど コナジラミ、アザミウマ類 アブラムシ、ハモグリバエ	3回 3回 1回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○抵抗性品種栽培・台木利用技術	青枯病 萎凋病、半枯病	1回
	○熱利用土壌消毒技術	青枯病 萎凋病、白絹病	1回
	その他の留意事項		

1.1 ピーマン

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料、点滴かん水施肥を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類)	アブラムシ類、アザミウマ類など	3回
	(天敵微生物) (BT剤)	灰色かび病 オオタバコガなど	3回 2回
	○被覆栽培技術(雨よけ)	疫病	2回
	○被覆栽培技術(防虫網)	オオタバコガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○抵抗性品種栽培・台木利用技術	青枯病、モザイク病など	1回
	○熱利用土壌消毒技術	青枯病、白絹病	1回
○光利用技術(紫外線カットフィルム)	アザミウマ類、コナジラミ類	2回	
その他の留意事項			



## 1.2 パプリカ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料、点滴かん水施肥を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類)	アブラムシ類、アザミウマ類など	3回
	(天敵微生物) (BT剤)	灰色かび病 オオタバコガなど	3回 2回
	○被覆栽培技術(雨よけ)	疫病など	2回
	○被覆栽培技術(防虫網)	オオタバコガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○抵抗性品種栽培・台木利用技術	青枯病、疫病	1回
	○熱利用土壌消毒技術	青枯病、白絹病など	1回
	○光利用技術(紫外線カットフィルム) (黄色灯)	アブラムシ、アザミウマ、コジラミなど 夜蛾類	3回 2回
その他の留意事項			

### 1.3 いちご

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・高設採苗、生物農薬、被覆栽培、黄色灯、熱消毒等により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類)  (BT剤) (天敵微生物)	ハダニ類・アザミウマ類 など	4回
		オオタバコガなど	2回
		灰色かび病など	4回
	○被覆栽培技術(親株、育苗)	炭疽病 輪斑病	4回 2回
	○被覆栽培技術(防虫網)	オオタバコガなど	2回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○熱利用土壌消毒技術	萎黄病、センチュウ	1回
○光利用技術(黄色灯)	夜蛾類	2回	
その他の留意事項			

1.4 スイートコーン

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (B T 剤)	アブラムシ類など	3回
		アブラムシ類など	3回
		アワノメイガなど	3回
	○被覆栽培技術 (防虫網)	アワノメイガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
○光利用技術 (シルバーマルチ)	アブラムシ類など	2回	
その他の留意事項			

1.5 オクラ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤)	アブラムシ類など	1回
		灰色かび病など	1回
		オオタバコガなど	3回
	○被覆栽培技術(雨よけ)	苗立枯病	1回
	○被覆栽培技術(防虫網)	オオタバコガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
○光利用技術(シルバーマルチ)	アブラムシ類など	2回	
その他の留意事項			

1.6 えんどう

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術(B T 剤)	シロイモジヨウなど	3回
	○被覆栽培技術(防虫網)	シロイモジヨウなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
その他の留意事項			

1.7 いんげん

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤)	ハダニ類など	2回
		アブラムシ類など	3回
		オオタバコガなど	2回
	○被覆栽培技術(防虫網)	アヲノメカガなど	2回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
○光利用技術(シルバーマルチ)	アブラムシ類など	2回	
その他の留意事項			

1.8 そらまめ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (BT剤)	ヨトウムシ類など	1回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
	○光利用技術 (シルバーマルチ)	アブラムシ類など	2回
その他の留意事項			

1.9 えだまめ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤)	アブラムシ類など	3回
		アブラムシ類など	3回
		オオタバコガなど	2回
○マルチ栽培技術	雑草	1回	
その他の留意事項			



20 にかうり

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。点滴かん水施肥栽培を利用する。
- ・抵抗性台木、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふん堆肥、パークたい肥等の施用を基本とする。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○局所施肥（側条施肥）及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術 （天敵昆虫・ダニ類） （天敵微生物） （BT剤）	アブラムシ類など	3回
		アブラムシ類など	3回
		オオハコガなど	2回
	○被覆栽培技術（雨よけ）	べと病	3回
	○被覆栽培技術（防虫網）	オオハコガなど	3回
	○マルチ栽培技術	雑草	1回
○光利用技術（シルバーマルチ）	アブラムシ類など	2回	
その他の留意事項			